



柱 1 【公共図書館としての存立基盤の整備】

● 5 年間でできたこと

- ・7 館+自動車文庫（ブックるん）による図書館サービス網を整えた。
 - ・図書館そだて会議や図書館協議会の開催など、市民と対話しながら図書館の活動をふり返し、改善するためのしくみができた。
 - ・資料の貸出やレファレンスサービス、図書館システムの更新により、市民の暮らしや仕事、まちづくりに資する図書館づくりに努めた。
 - ・ホームページのリニューアル、SNS の活用など図書館の広報を行う体制を整えた。
 - ・様々な研修の機会をつくり、司書のスキルアップを図った。
- ▼とはいえ…
- ・限られた人員と予算という厳しい状況が続く中で、質の高い図書館運営を持続していくための体制をつくっていく必要がある（「縮充」）
 - ・図書館そだて会議等で市民との協働を進めてきたが、参加者が固定化している。
 - ・高齢化で図書館を利用し続けたいが免許を返納しなくてはならないという方や入院により利用できない方などが増えてきたため、図書館サービスを「届ける」仕組みの整備が課題。



1 本と出会える場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】

- 市民参画・協働
- 「持続可能」な図書館運営

- ①市民との対話をつうじて図書館を育てていく
- ②持続して図書館を運営できる体制を整える
- ③市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料提供
- ④地域の中で図書館サービスを展開する
- ⑤図書館利用が困難な人へのサービスに取り組む（読書バリアフリー）



2 子どもが育つ場所になる

【子どもの学びへの積極的な貢献・子どもの読書活動推進】

- 「こどもまんなか」
- 学校図書館支援

- ①乳幼児親子に豊かなことばの世界に出会い、親しんでもらう
- ②児童・生徒がいつでも読み、調べられる環境を整える
- ③ユースが図書館で本やいろいろな人に出会える機会をつくる
- ④子どもが居たいように居られる居場所になる



【真庭市立図書館の使命】

市民と団体による

地域自治の拠点として積極的な役割を果たします

= 「真庭ライフスタイル」の実現



「応え」(response) あうなかで、
「答え」(answer) が生まれてくる場所に

←継続
します

検討中！

3 地域と出会える場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

- 市民と創る
- アーカイブする

- ①地域の人たちと一緒に真庭の文化・歴史・くらしを再発見し、あらたな価値を創る
- ②劣化が進む郷土資料のデジタル化を進める



5 誰かと出会える場所になる

【市民が繋がる地域交流拠点創出】

- 社会的包摂
- 人口×活動量

- ①市民の「やってみたい」に応えていく
- ②用事があるうとなかろうと、気軽に「行ってみよう」と思ってもらう
- ③人が集うところへ出向き、本を介した交流の場をつくる
- ④多様な背景や経験を持つ人々の交流の場になる



4 いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

- 知る・学ぶ機会の共創

- ①誰もが学びやすい環境を整える
- ②いろいろな団体や組織等と連携して市民の学ぶ機会を増やしていく



柱 5 【市民が繋がる地域交流拠点創出】

● 5 年間でできたこと

- ・「勝山もちより盆踊り」「ガザ関連映画上映」「北房平和の集い」「お泊り図書館」「平安あそびでタイムスリップ」「まにわユース文化祭」など、市民提案から事業が生まれ、市民の活動と交流の拠点としての図書館という認識が広がりつつある。
 - ・「もちより図書館」「カフェの日」など、施設の前や施設のロビーで参加者や出店者のおすすめ本を展示したり、地域の人びとが交流しつながら場づくりを積極的にすすめてきた。
 - ・市民主催「猫フェス」や教育委員会「あそびのわ」、市政 20 周年事業など、行政発、市民発のさまざまなイベントに自動車文庫などで参加し、本を介した交流の場をつくることができた。
- ▼とはいえ…
- ・市民発案の企画やイベントが増える一方で、スタッフの負担も大きくなり、従来の司書の役割以上のことが求められるてきている。社会教育や地域活動のコーディネーションといった専門性を持ったスタッフを配置するなど、さらなる展開に向けた体制づくりが必要。
 - ・建物の構造上の制約や空間の不足から、「静けさ」と「にぎわい」の両立が難しいことがある。
 - ・図書館が多くの人の居場所となりつつあるが、資料の貸出にはつながっていない。



柱 2 【子どもの学びへの積極的な貢献・子どもの読書活動推進】

● 5 年間でできたこと

- ・市内 26 校すべてに蔵書管理システムを導入し、市内全蔵書の検索・活用が可能になった。
 - ・学校図書館への搬送便を開始し、子どもたちが学校図書館で市立図書館の本を利用することが可能になった。
 - ・学校司書が市立図書館へ出向き、選書や資料借受ができる仕組みを整備した。
 - ・子育て支援課と連携して、乳幼児とその保護者向けに図書館の利用案内や資料の紹介を行うなど、図書館による子育て支援に取り組んだ。
 - ・自動車文庫の運行基準を見直し、子どもが通う施設へ出向くことを明記した。
 - ・中央図書館内でユースセンターとの連携事業が始まった。
- ▼とはいえ…
- ・学校司書の授業への参画など、「学習センター」としての学校図書館機能については、今後の課題。
 - ・各館でのおはなし会参加者が減少している。
 - ・少子化のなかで、子どもに知る喜び・読む楽しさを届け、人と本、多様な人とのつながりを作っていくこと。
 - ・子どもや若者の居場所としての機能を図書館単独あるいは司書だけで果たしていくことに限界がある。



学校図書館では予算内で子どものリクエスト本を購入するのは難しいのが現状でした。連携図書がはじまり、週に1度は地区の公共図書館に出向き、直接本棚を見て選書し、学校図書館に持ち帰っています。「Aくんは怖い本が好きだったな」など子供たちの顔を思い浮かべながら選書しています。頻繁に棚のラインナップが変わる連携図書コーナーは、いつも大人気。連携図書を始めて、本が好きな子どもが以前より増えたような気がします。(学校司書・K)



柱 3 【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

● 5 年間でできたこと

- ・「真庭校歌研究室」や「まにわ図書館ラジオ」などの実践を通じて、市民とともに地域の記憶を記録し、発信する方法を開発し、その価値を実感することができた。
 - ・真庭ならではの SDGs という視点を持って「富原茶」「山中一揆」「植物標本展」などをテーマに講演会やワークショップを実施したほか、各館で地域固有のテーマ展示や各地区館での特色棚の整備を行った。
- ▼とはいえ…
- ・基本的に方向性は継続。より多くの市民と日常的に活動を重ね、顔が見える関係を作りながら、地域資源をアーカイブしていく必要がある。
 - ・劣化が進む郷土資料のデジタル化に着手しているが、専任の担当者がないため進捗が遅い。デジタル化後の公開・検索・利活用の仕組みも未整備。



柱 4 【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

● 5 年間でできたこと

- ・菰山郷土博物館、放送大学岡山学習センター、岡山県立博物館など多様な機関と連携して、市民にさまざまな学びの機会を提供した。
 - ・市民の学びたい気持ちに応える場として、レファレンスサービスの充実や、他自治体・国立国会図書館等からの資料の取り寄せ、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、学習スペースの提供などを実施。
 - ・全館にインターネット端末・FREE Wi-Fi を整備。
- ▼とはいえ…
- ・図書館が地域の「知」を集積・公開していることが市民に十分知られていない。予約やリクエスト、レファレンスサービス(調べもの支援)が市民に十分知られておらず、活用されていない。
 - ・市による Free Wi-Fi の提供が終了するため、図書館独自で整備する必要がある。
 - ・Free Wi-Fi など市民の情報アクセスを保障するとともに、メディアリテラシー向上支援を進める必要がある。

5年間のまとめ

- ① 7 館+自動車文庫による図書館サービス網を整備。資料の貸出とレファレンスサービスにより、市立図書館としての基本的なサービスを提供した。
- ② 図書館協議会や図書館そだて会議の開催など、市民と対話しながら図書館の活動をふり返し、改善するためのしくみを整備した。
- ③ 学校に蔵書管理システムを導入し、学校図書館と市立図書館との連携を強化。子どもの読むこと、知ることを支える体制を整えた。
- ④ 司書のスキルアップの機会を充実させた。公共図書館、学校図書館ともに、定期的な会議実施や各種研修への参加により、司書業務の質の向上を図った。
- ⑤ 全館での図書館そだて会議やさまざまなイベントを通じて、市民に「図書館に行けば何かできる」という認識が広がり、市民とともに作る図書館・市民自治の拠点としての図書館のイメージを具体的に示すことができた。

Library of the Year
2024
優秀賞を受賞



ライブラリーオブザイヤー (Library of the Year) は、NPO 法人「知的資源イニシアティブ」が、これからの図書館のあり方を示唆するような、先進的な活動を行っている機関に対して毎年授与しているものです。

【授賞理由】「真庭市図書館みらい計画」に沿ったまちぐるみの図書館活動

【授賞理由の詳細】市民との対話による「図書館そだて会議」で策定したみらい計画を土台に、「あそび」の生まれる時間を大事にしながら、「生き方」「考え方」「暮らし方」の学び合いを実践している。統廃校を含む市内の小中学校の校歌を卒業生とともに情報収集・整理・発信する「真庭校歌研究室」や、勝山高校図書委員会による「イチオシ本」展示の取り組みのように、図書館を拠点とした学びとつながりによって真庭市の一体感を醸成している。

【真庭市図書館みらい計画 図書館運営の評価 について】

現行計画では、図書館の運営状況を評価する際、定量的に活動状況を測る指標として①実貸出利用率、②市民や団体、学校との協働事業数と参加人数の2つ、定性的に活動状況を測る指標として、③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題となる点を洗い出していくことの3つを用いるとしています。

① 実貸出利用率	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	② 市民や団体、学校との協働事業数と参加人数	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
実利用者数全館合計	4,688	4,827	4,681	4,396	4,389	事業回数	263 回	393 回	409 回	402 回
人口（各年度 4 月 1 日時点）	43,915	43,094	42,102	41,260	40,362	参加人数	2,664 人 ＋α	3,082 人 ＋α	3,345 人 ＋α	3,732 人 ＋α
実貸出利用率％	10.68％	11.20％	11.12％	10.65％	10.87％					

③図書館協議会や図書館そだて会議などで市民との意見交換や対話を重ねるなかで評価される点や課題



(2022 年度図書館協議会①)

・実貸出利用率を上げるには中央図書館だけでなく各地区館が地元の人にどれくらい働きかけられるかだと思ふ。

・昨年、社会教育委員会で市内の図書館を視察した。各館の司書のやる気を感じた。

・図書館で本を読まなくても、集う場所としての機能があれば若者は公民館や図書館のようなコミュニティスペースに集まってくと思う。

・公共のものは硬いイメージがあるが、SNS の発信など積極的で図書館らしくない。図書館の枠を超えた取り組みもされており、変化し続けているという印象を受ける。

(2022 年度図書館協議会②)

・図書館は静かに本を読むところという固定観念があるが、スペースを区切ってコミュニケーションできる場所になってきていると感じる。

・中央館は図書館を中心に他の様々な機能を持たせコミュニティの拠点になりつつある。

・児童から意見を集めてそだて会議で伝えた。その意見が少しずつ実現し、自分たちの意見が生かされていることを子どもも実感できている。

(2023 年度図書館協議会①)

・中央図書館の来館者数が前年より 5,000 人近く増えたが貸出に繋がっていないとのことですが、図書館が「図書」と「館」だと考えるなら、館としての機能がしっかり機能しているので前向きに評価していけばいい。

・「図書館そだて会議」に多くの市民に参加してもらうためにも告知を早くしてほしい。そうすれば同じ顔ぶれにはならないのではないか。「図書館そだて会議」とは何かという説明も必要。

・各図書館に特長があり、利用される方の年代に応じた工夫がされていると思います。

・各館の共通性も増え、全ての図書館で連携がはかれていると思います。

・図書館に行ったら子どもがうるさいと怒られて、行けなくなったという話を聞いた。休日に親子で遊びに行ける場所になればいいなと思います。

・館内にがにぎやかになるなら、静かに読めるスペースを作っていけたらいいですね。

(2023 年度図書館協議会②)

・アンケートでは、図書館は居心地がいいとおっしゃっている人が多いですね。場としての魅力みたいなものが真庭の図書館にはあると思う。

・真庭市の図書館は、単に本を貸し出すだけではなく、多世代の居場所や市民交流の拠点として、様々な機能や活動があり、工夫がある。そうした実態を評価するための指標があればいいなと思います。

・やったことをただ報告している。一つの事業について、定員に満たなかった場合、改善すべき点は？といった話がない。

・数字はうまく利用して、やっていることをうまく発信していくといいと思います。

・子どもたちがたくさん来ているのっていいねっていう図書館になるといいなと思います。

・みらい計画に基づきつつ、各館がオリジナリティをもって、図書館ってこんなことができるんだ、あんなことができるんだと、集まるきっかけや遊び方とかやわらかいイメージの図書館ができあがってきたなと思います。

・協議会に出て、図書館職員の仕事を知りました。中央館も各図書館もそれぞれよくされている。そんな職員のみなさんを信頼しています。

(2024 年度図書館協議会①)

・市民の自治や学びにとって公民館は非常に重要だと思うが、真庭にはないので図書館にさまざまな機能が求められる。いろいろなイベントを図書館がやることによって来館者数はとても伸びてきていると思います。ただ、これも地域格差がありますね。

・本を借りてもらふ工夫や空間づくり、本の見せ方のおかげで、本を借りる人が増えているように思います。この部分も数値化できるといいですね。

・図書館によって空間、規模、立地など制約がある中で、特色を出していく努力をされていると来館者数から感じました。

・学校と公共図書館とのシステム連携ができてありがたい。学校司書が全校に週1回は来てくれるようになり、非常に充実してきた。

・おはなし会に来る保護者がすごく減った

・異常気象で人の行動が変わっているという話も聞く。図書館にあってはまるかまでは分かりませんが。

・イベントというのは全ての館がどんなやらなくてもいいのかなという気がしています。

・図書館職員が地域に積極的に入っている。地域の会合とかにも入っていて、一緒にやろうというスタンスが見える。イベントで地域の人から声がかかるとかっていう話もある、やっぱり地域に出るとするのがすごいなと感じています。

(2024 年度図書館協議会②)

・各館が地域に密着した取り組みをされていて良い環境だなと思います。

・少ない人数でよくやられている。勝山小の1日図書館運営イベントの時に館長が、「真庭の図書館だから出来るよね」と言われていた。地域の方にもあたたかく見守っていただけた。都会にはない地域の良さだと思う。

・中学生が本を読んでないのは課題だと思いました。図書委員など、図書館と交流・連携して読書につながるといいなと思いました。

・そだて会議で出された意見をしっかりと実行されている。

・そだて会議の記録で、移動手段がないから行けないというのが目につきました。地域に出てきて欲しいという意見もあったと思います。学校に出張してイベントをしてくださるのもいいのかなと思いました。

・図書館まで足を運ぶ方法がないというのは市域が広い真庭市の特徴だと思った。図書館がどこまで支

援できるか。

・そだて会議で「音楽がかかっていたら入りやすい」という高校生からの意見について、「うるさいと思う人もいるかもしれないから慎重にしたい」と返されていた。せっかくだから、一緒に試行錯誤しながらやってみては。

・そだて会議で、真庭高校にも司書がいるので連携したらいいと思った。

・美甘図書館でのそだて会議の記録に「図書館で小学生と話ができてうれしい」という意見がありました。高齢の方が小学生と交わる場というのは大切なこと。

・そだて会議では、各館でできている所を見てあげてほしいと思います。異業種や地区の団体とコラボしたイベントが盛んに行われていて嬉しい。

・図書館が公民館的なこともしていて、オーバーワークもあると思う。各振興局の社会教育主事などと連携していくといいと思う。

・そだて会議の参加者が固定化しているようだが、何かイベントのあるときに気軽に意見交換できる機会を持つとよいのでは。

(2025 年度図書館協議会①)

・学校図書館のシステムが整ったことは大きな成果だと思っています。司書の研修もしっかりされていて、専門的なアドバイスもいただける。

・学校の空き教室を公民館的に使って、地域と子どもたちとの交流が活発になるといいと思う。へき地でも図書に触れる機会が得られるように動いていきたい。

・運営実績からも各地区館の活動が活発になってきていると思いました。司書が少ない中で新しいことを進められていてすごい。努力が数字に表れていると感じました。

・子どもが産まれて、今まで以上に図書館に行きくなった。

・計画の改定では、市民に分かりやすい言葉に変更してもいいかも。

・次の5年間でこれだけはやるということを重点的に決めた方がよい。居場所作りは、図書館以外に公民館や学校でもやっている。それぞれの役割を活かして連携することが大切。



基本方針ごとの具体的な事業・活動の例（＝ご意見おまちしています）

1 本と出会える場所になる

【公共図書館としての存立基盤の整備】

○市民参画・協働

○「持続可能」な図書館運営

①市民との対話をつづじて図書館を育てていく

- 図書館協議会の開催
- 「図書館そだて会議」の開催

②持続して図書館を運営できる体制を整える

- 人材（司書のほか、社会教育や地域活動のコーディネーションなどの専門職）確保のための条件整備
- 職員の研修機会の確保
- 開館日数や開館時間の見直しなど、地域事情や利用実態などに合わせた図書館運営

③市民が自らの課題に気づき、解決していくための資料提供

- 【暮らしの課題解決】
- 資料の貸出、レファレンス、テーマ展示、講座等の実施
- 市民の生活や仕事に関わる様々な課題の発見と解決の支援に役立つ選書と情報提供
- 図書館のサービス内容の周知、発信強化
- 【まちづくり】
- 市職員や議員への資料や情報の提供、レファレンス
- 市主催の講座や催事等に資料・情報の提供
- 図書館の行政資料コーナーの整備
- 市内の産業や取り組みをSDGsの視点で捉え直す資料収集と企画展示
- 【ICT メディアリテラシーの向上】
- 館内に設置している情報端末の利用支援
- タブレットやアプリケーションの使い方、SNSの始め方、インターネット検索、生成AIとの付き合い方についての講習会等の開催

④地域の中で図書館サービスを展開する

- 自動車文庫の運行
- こども園や公民館等への配本
- 学校図書館等への団体貸出

⑤図書館利用が困難な人へのサービスに取り組む（読書バリアフリー）

- 【読書バリアフリー】
- アクセシブルな書籍の購入
- 障害に関する理解を深める資料の購入
- 「LL版（やさしくよめる）利用案内」の作成
- バリアフリー機器の購入検討
- 郵送貸出実施に向けた環境整備
- 【シニア】
- 資料の展示、講座・講演会、上映会等を開催
- 庁内関係部局や市民団体等との連携による情報提供
- 認知症への理解を深める企画の開催や資料の充実
- 【多文化共生】
- 利用案内や掲示、表示への多言語の対応
- 「やさしい日本語」の活用を検討
- 庁内関係部局や市民団体、個人と連携し、現状やニーズの把握を行う

2 子どもが育つ場所になる

【子どもの学びへの積極的な貢献・子どもの読書活動推進】

○こどもまんなか○学校図書館支援

①乳幼児親子に絵本やわらべうたに出会い、親しんでもらう

- 乳幼児連れが気兼ねなく過ごせる環境づくり
- 図書館員やボランティアによる「おはなし会」の実施
- ブックスタート事業への協力
- 保育士や幼稚園教諭を対象とした図書館サービスの充実

②児童生徒がいつでも読み、調べられる環境を整える

- 学校司書の授業への参画
- 学校司書の研修機会の確保
- 学校司書による学校図書館運営スキルの向上
- 学校と市立図書館間、学校間での資料運搬の実施
- 保育園、幼稚園、こども園、放課後児童クラブ等への自動車文庫の乗り入れや団体貸出の充実
- 教員向け資料の収集・貸出

③ユース（13～18歳）が図書館で本やいろいろな人に会える機会をつくる

- 高校や大学、ユースセンターなどと連携した企画の開催
- ユースの興味・関心に応えられるような資料・情報の提供
- ユースに関わる専門職（ユースワーカーなど）との協働

④子どもが居たいように居られる居場所になる

- 子どもの成長と興味にあわせた多様なジャンルの資料を収集
- 子どもが企画段階から参画できる事業の実施
- 一人でも友だちとでも過ごせるスペースと見守る人材の確保

3地域と出会う場所になる

【地域資源の再評価と新たな価値の創出】

○市民と創る ○アーカイブする

①地域の人たちと一緒に真庭の文化・歴史・くらしを再発見し、あらたな価値を創る

- 地域の人たちに話を聞いて記録・発信していく
- 地域の歌、踊りを記録し、伝えていく
- 地域の人たちが作った資料を保存し、誰でも見ることができるようにしていく
- 地元の多彩な産業や商業、伝統工芸の魅力を再発見するイベントやプログラムの開催

②劣化が進む郷土資料のデジタル化を進める

- 撮影やスキャンによって資料が傷まないようにデジタル化するための環境を整える
- デジタル化作業のマニュアルを作成する
- 郷土資料の図書館への寄贈を呼びかける

検討中！

4 いつでも学べる場所になる

【知的探究に応えるコンテンツ戦略】

○知る・学ぶ機会の共創

①誰もが学びやすい環境を整える

- 真庭市内、他自治体図書館、国立国会図書館等から資料を取り寄せて提供
- 情報探索方法の案内や専門機関の紹介
- 全図書館でFree wi-fi環境を整備
- 市民のメディアリテラシー向上に資する取り組みを進める
- タブレットの館内貸出を検討

②いろいろな団体や組織等と連携して市民の学ぶ機会を増やしていく

- 大学や美術館・博物館等社会教育機関等との連携企画を開催
- さまざまな分野の専門家を招いての講演を開催

5 誰かと出会う場所になる

【市民が繋がる地域交流拠点創出】

○社会的包摂 ○人口×活動量

①市民の「やってみたい」に応えていく

- 市民発案によるイベントやプログラムの開催支援
- 社会教育や地域活動のコーディネーションの専門性を持ったスタッフの確保

②用事があるうとなかろうと、気軽に「図書館に行ってみよう」と思ってもらふ

- いつ来ても何か発見があるような、図書のテーマ展示の実施
- 居心地のよい館内レイアウトの工夫
- 図書館職員による日常的なあいさつや声かけ、見守り

③人が集うところへ出向き、交流の場をつくる

- 市民が集まる地域のイベント等への自動車文庫の参加

④多様な背景や経験を持つ人々の交流の場になる

- 海外の食文化や芸術・芸能等を紹介する企画の実施
- 図書館ホームページのアクセシビリティの向上や図書館からの出張サービス等、自ら図書館へ足を運ぶことができない人のために、来館しなくても利用できるサービスの検討
- 多世代が交流できるような企画の実施

図書館で何がしたいですか？

どんな図書館であってほしいですか？



検討中！